

主な意見、要望等	市長、担当部署の回答、対応状況等	最新の進捗状況等
農地の管理について。高齢化で整備ができていない。草や木などが生い茂っている場所をしっかりと管理するよう市から指導して欲しい。ペナルティなど設けて欲しい。	ご意見として承る。現状を把握したうえで検討する。	適宜、現状把握に努めるとともに、農業委員会から農地所有者に対して適正管理に関する指導を行うほか、農地法に基づいた必要な措置を講じています。
コメ不足問題。地元の田んぼが減っている。行政も田畑の整備をして欲しい。	農地は新鮮で安全安心な食料の供給に加え、多面的機能を有しており、市街化区域内に存在する生産緑地を含めてしっかりと維持していくことは重要と認識している。農業生産を支えている基礎的構成要素の一つである「農地の区画整理や農業用水等の土地改良施設整備」については、地域関係者ととともに、順次整備を行っているが、「多様な担い手確保」や「モノのインターネット（IoT）や人工知能（AI）などの先端技術を活用した農業技術」についての質向上も図れるように引き続き支援していく。	
農業が主要産業の地域であり、広報にも載っている農業の課題の部分について把握しているか？ 農業の担い手がない。農地の管理をする人もいない。農業の未来を考えておいて欲しい。	農地を次世代に引き継ぐために策定する地域計画の策定手順については、市街化調整区域内で指定している農業振興地域を9つの地域に分けて、座談会を開催した。座談会では、地域の現状と課題を整理し、地域における農業の将来像を話し合い、概ね10年先の「農用地の効率的かつ総合的な利用に関する目標」と「地域の農業を担う人が耕作する農地を一筆ごとに反映した目標地図」を作成し、関係団体への意見照会や計画案の公告・縦覧等の手続きを経て、令和7年3月31日に策定・公告を行った。今回策定した地域計画は、農地の集積・集約化を進めるとともに、地域における農地の計画的な保全や適切な利用を一体的に推進するスタート地点であると認識している。策定過程において様々な課題を聞いた内容のうち、すぐには取り組めない難しい課題は関係者全体で共有し、解決の方向性についての話し合いを続けながら、将来における農業の将来像に沿った力強い岸和田農業の実現に向けた重層的な取り組みを施策化していきたいと考えている。	地域の農地における効率的かつ総合的な利用を図るため、地域計画のブラッシュアップとその実現に向けた多様な施策を推進しています。
アライグマ、イノシシ、カラス等の害獣の被害対策を強化を考えて欲しい。	市では岸和田市鳥獣被害防止計画を策定し、イノシシ、アライグマ、カラス、カワウを対象とした捕獲、防護、地域の環境整備の3本柱を基本とした対策を実施している。捕獲については、①「岸和田有害捕獲隊」に有害鳥獣捕獲業務とアライグマ処置作業を委託。②緊急捕獲事業を官民協働で実施。③アライグマ捕獲檻の貸し出し、④関係者を対象した有害鳥獣被害対策研修、⑤担い手確保に向けた狩猟免許試験予備講習会受講料の補助金交付を行っている。防護については、先の「岸和田有害捕獲隊」への有害鳥獣捕獲業務委託にて、春～夏、秋～冬の期間で、カラスとカワウを対象とした追い払い活動を実施している。地域の環境整備については、有害鳥獣の隠れ場所となる農地の草刈り指導や道路法面の雑草除去の要請などを実施している。	
荒れ地について、市から指導して欲しい。	当該地、は同一人物が所有する農地であり、農業委員会事務局職員による現地確認を行い、農地所有者に対して適正な農地管理を行なう旨の文書を送付した。適宜、現地状況を確認し、必要に応じ農業委員と最適化推進委員による指導を行う。	